

やってみよう！

高三

私は手が不自由で、手伝いたくても手伝えないことがある。そうしたとき、私はもう少し手が自由だったらいいのに、と心が痛む。しかし、私にもできることはある。

たとえば、家でできることは、お風呂のスイッチを押すことや、タオルを畳むことだ。しかし、手伝いたくても、できない場合もある。そんなときには、自分ができるところを探して、前向きに行動するのだ。そのときに自分ができるところは、人に依頼をすることだ。テーブルを自分で拭くことができる。しかし、キッチンに台拭きを持っていくことは困難なので、それを母にお願いして、キッチンまで持ってもらう。自分ができないことを、人に依頼することだ。できるようになるのだ。

また、中学三年生のときに、私は授業で、保育園に行く機会があった。しかし、保育園の子供と遊んでいるときに、その子供が、エプロンを着せ

てほしいとお願いをしてきた。私は手が不自由なので、どうしていいか分からなくなり困っていた。すると、子供が私のところから離れていった。しまった。誰かにお願いしようと思っていたら、すでに他の先生がエプロンを着せてくれていた。そのとき私は、「なんで自分から他の人を呼べなかったのだろう。」と後悔した。このように困っている人を見かけると、自分はどうすればいいのかわからないことがある。そして、どう対応すればいいか考えているうちに、自分の元から人が離れていってしまうのだ。私はそういったときに、切ない気持ちになるのだ。そこで私は、自分でできないことをすぐに判断して、他の人に依頼をするのが大切だと思った。そうすれば、人を自分なりに助けることができるのだ。

今までに私は、やりたくてもできないことがたくさんあった。しかし今は、できることがたくさん増えてきた。私は、人を笑顔にすることができている。困っている人の相談に乗って、アドバイスをすることだ。相手を明るくすることができているのだ。これなら手が不自由な私でも、人を助けることができるのだ。また、こうして自分の考えを文章に

まとめることで、手が不自由でも周りの人に依頼をすれば、できることがあるということを、一人でも多くの人に、知ってもらうことができる。私は、長い文章を自分で書くのが難しいので、この作文を書くときには、自分の考えを言葉で伝えて、先生に代筆してもらった。この作文を読んだ人が、自分の周りにも困っている人がいるかもしれないと考え、勇気を出して声をかけようとチャレンジするきっかけになればいいと思う。また、体が不自由な方が、自分でできなくても、あきらめるのではなくて、自分から新しいことにどんどん挑戦してほしいと思う。

もちろん私も、積極的に新しいことにチャレンジしたい。たとえば、自分からコミュニケーションをとることや、自分の物を自分で管理すること、自分で小さく字を書けるようにすることだ。みなさんも、新しいことに挑戦してみませんか。

一緒に、やってみよう！